

〈 完成報告書検討結果（福岡工業大学社会環境学部） 〉

[1] 概評

2005（平成 17）年度の本協会による相互評価に際し、貴大学社会環境学部は、評価資料を提出する 4 月段階において申請資格充足年度（標準修業年限＋1 年）を経ておらず、教育・研究活動に関する評価を十全には行えなかった。よって当該学部の完成時の状況を、完成報告書として取りまとめることを求めた。

今回提出された完成報告書からは、社会環境学部では、「環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし（中略）環境調和型社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成」を謳い、その目標を実現するためのカリキュラムは、経済・経営、法律・行政、人間生活の 3 つの系で構成していることが認められる。専門科目と教養科目等は適切に配置され、とくに、4 年間必修の「少人数ゼミナール」は、入学時の履修指導から生活指導にいたるまできめ細かく学生に配慮する科目として注目できる。また、2 年次と 3 年次に行われる「社会環境学検定試験」も学生の到達度を測定する工夫として評価できる。

教員組織も特段の問題はないが、最近 2 年間の学生の受け入れに関して、入学定員に対する入学者数の比率が 2008（平成 20）年度は 1.22、2009（平成 21）年度は 1.32 と高くなっているため、今後は厳重な注意が必要であろう。

[2] 今後の改善経過について報告を求める事項

なし